

お祖師さまを巡る人々

第4回



高祖日蓮大士ご降誕 800年慶讃

【富木常忍】さんは、下総国八幡荘若宮（今の千葉県市川市）に住む武士だったんだ。この下総国には、千葉頼胤という鎌倉幕府の御家人（将軍に直接仕える武士）がいて、下総国を治めていたんだよ。【富木常忍】さんは、この千葉頼胤氏に仕えるとても優秀（非常にすぐれていること）な武士だったんだね。今回は、この【富木常忍】さんについてのお話をするね。

富木常忍

①

【富木常忍】さんは、早くからお祖師さまに帰依（僧侶などを信じその力にすがること）していた古いご信者なんだ。

文応元年（一二六〇）八月、【松葉ヶ谷の法難】（平成三十年十一月号の佛立新聞）「お祖師さまをお訪ねする物語第十一回」を読んでね）がおこり、お祖師さまは、【常忍】さんの邸（家）に避難（安全な場所へうつる）されたんだね。【常忍】さんは、邸の中に「法華堂」というお堂（神仏をまつった小さな建物）を建て、お祖師さまをお迎えされたんだよ。

文永元年（一二六四）に【小松原の法難】（平成三十一年四月号の佛立新聞）「お祖師さまをお訪ねする物語第十六回」を読んでね）がおこった時も、お祖師さまは、【常忍】さんの邸に身を寄せられているんだ。

この【常忍】さんの邸の「法華堂」で、お祖師さまは、およそ百回ほどの説法（仏



富木常忍さんはお祖師さまの御書を数多く残すため、湿気や虫食いなどを考慮し、御書を風通しのよいものに収めるなど、保存に全力を尽くした

さまの教えを説き聞かせること）をされたといわれているんだよ。この説法を聞いて太田乗明・曾谷教信といった人たちが御題目のご信者となったんだね。

文永八年（一二七二）の【龍ノ口の法難・佐渡流罪】（平成三十一年一月号・令和元年八月号の佛立新聞）「お祖師さまをお訪ねする物語第十三回・第二十回」を読んでね）の時には、お祖師さまがご不自由されないようにと、【常忍】さんは数名の従者（ともの者、ついてしたがう家来）をお祖師さまに付けられたんだ。

こんなふうな【常忍】さんは、お祖師さまにとつて、いざという時に頼れるとても心強いご信者だったんだね。

また【常忍】さんは、頭のとてもよい人だったので、【観心本尊抄】などの重要な

御書（お祖師さまが書かれた書き物）を数多くいただかれているんだよ。

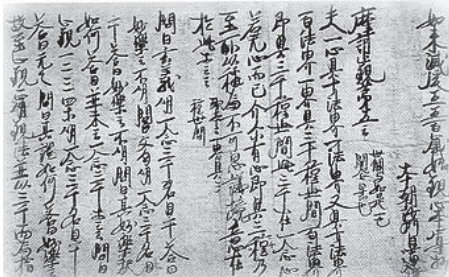
お祖師さまご入滅後の富木常忍

弘安五年（一二八二）十月、お祖師さまがご入滅（亡くなる）されると、【常忍】さんは出家（僧侶になる）して【日常】と名乗り、邸の法華堂を「法華寺」というお寺にして初代の住職となったんだよ。

後にこの「法華寺」は、「本妙寺（太田乗明の邸跡）」と合体（二つ以上のものがまとまって一つになること）して、現在の【法華経寺】となるんだね。

【常忍】さんの最大の功績（すぐれた働きや手柄）は、後世（あとから生まれてくる人）のために数多くの御書を残したことなんだ。

【立正安国論】や【観心本尊抄】などの、お祖師さまの御真筆（その人が本当に書いたもの）の御書が現在に残っているのは、【常忍】さんの大変な努力があったからなんだよ。私たちも人々にこのご信心を伝え残す気持ちを忘れずにご奉公に励もうね。



観心本尊抄・正式には『如来滅後五五百歳始観心本尊抄』（法華経寺蔵、国宝）
文永10年（1273）4月25日、お祖師が52歳の時、佐渡島の一谷で御著作になり、富木常忍に送られた御書



富木日常座像（法華経寺蔵）
富木常忍（日常）はお祖師さまのご入滅後、出家して自分の邸に法華寺（中山法華経寺）をひらいた。そして、し目蓮聖人の遺文の収集と保存につくし目録「常修院本尊聖教事」を完成させた



法華経寺 奥之院
奥之院は、お祖師さまが、文応元年（1260）富木常忍の邸に避難されてきた時に建立された「法華堂」のあった地だと言われている